

## 1. ロヒンギャ族関連ニュース

### ①ロヒンギャ拘束で、タイ人4人逮捕、タイで30遺体発見

タイ南部ソクラー県でイスラム教徒少数民族ロヒンギャなど30人以上が遺体で見つかった事件をめぐる、タイ警察当局は4日、これらの人々をマレーシア国境付近に設けたキャンプで不法に拘束し、身代金を要求した容疑などで、地元自治体職員の男(48)ら4人を逮捕したと発表した。タイムメディアによると、国境付近には同様のキャンプが数十カ所あり、飢えや病気などによりこれらのキャンプで既に500人以上が死亡しているとの証言もある。警察によると、逮捕された男らはミャンマーのロヒンギャやバングラデシュ人をタイに不法入国させ拘束。さらにロヒンギャの家族らに対し、解放条件として身代金支払いを要求するなどした。

ミャンマーで差別的扱いを受けるロヒンギャの多くは迫害を逃れ、職を求めるため周辺国に脱出する例が多い。男らはロヒンギャの出国や密入国を手引きする犯罪組織の一味とみられている。ロヒンギャはミャンマー国籍が認められていないことが多いため、避難先で難民認定を受けるのが困難。十分な保護が受けられないケースが多く、今回の事件はロヒンギャをめぐる人権問題の深刻さを浮き彫りにした。

### ②ロヒンギャ族約2000人保護＝インドネシアとマレーシア沖

5/11、インドネシアとマレーシア当局者は、両国沖で約1400人のイスラム系少数民族ロヒンギャ族が保護されたことを明らかにした。インドネシアでは10日にも漂流船に乗ったロヒンギャ族約600人が発見されたばかりで、2日で約2000人が保護された。マレーシアの警察当局者によると、マレーシア北西部ランカウイ島沖で、3隻の船に乗ったミャンマーとバングラデシュのロヒンギャ族1018人が確認された。人数はさらに増える見通し。一方、インドネシアの救難当局は11日、アチェ州東部沖で400人を発見。アチェ沖では10日にも漂流船が発見され、乗っていた男性は地元メディアに「迫害を逃れるためミャンマーから船に乗った。マレーシアに行く予定だったが、燃料が切れ漂流した」と訴えている。

### ③ロヒンギャ族の収容キャンプ設置を検討＝警察

タイ南部ソクラー県でイスラム系民族ロヒンギャ族の「集団墓地」などが見つかったことに絡み、タイ警察のソムヨット警察庁長官は、政府にロヒンギャ族が居住するためのキャンプ設置を提案する方針を明らかにした。キャンプ設置は、タイ国内にいるロヒンギャ族の身元管理と安全性の確保が目的。同長官は「キャンプ設置がロヒンギャ族の違法入国を促す恐れもある。その場合、タイとして果たすべき責任がより重くなる可能性がある」との懸念を語った上で、政府の意向や予算の有無などを確認する考えを示した。同長官によると、タイに入国したロヒンギャ族はミャンマーに帰国しても身の危険にさらされる可能性が高い。タイ警察の説得に応じて自国に戻るロヒンギャ族はほとんどいないという。

### ④ロヒンギャ難民急増、マレーシアが領海警備強化

マレーシア北部クダ州ランカウイ島に、ミャンマーなどからのイスラム教徒の少数民族ロヒンギャとみられる1,000人以上の難民が漂着したことを受け、マレーシア政府は対応を急いでいる。人道支援を続ける一方、向こう数日以内にさらに多数の難民が漂着する可能性があるとして、領海警備を強化する方針も打ち出した。12日には行政都市プトラジャヤで、内務省を中心に警察、移民局、マレーシア海上法令執行庁(MMEA)、国家安全保障会議の代表が出席した特別会議が開かれた。

過去3カ月でミャンマーのイスラム教徒少数民族ロヒンギャやバングラデシュ人、計2万5,000人以上がマレーシアに向けて出港、前年同期の2倍に達していることから、ワン・ジュナイディ・ジャファル副内相は「今後これ以上の難民が増えれば対処できない」と悲観的な見方を示した。大半はタイに上陸したのち、陸路でマレーシアに向かっているほか、現在も8,000人近い難民を乗せた船が海上にあるとされる。内務省は、所管官庁を通じて難民流入を防ぐ方針。MMEAでは、海軍との協力で領海監視を強化。北部管区のサリム・アーマド司令官は「海軍との合同パトロールで領海侵入を防いでいる」としつつ、「いったん領海に入った難民船については、人道的観点から保護活動に切り替えて対処する」と語った。11日に漂着した難民1,158人は現在、ランカウイ島の国際射撃場に設けられた暫定キャンプで保護されている。今後は州内の別の施設に移送されるが、施設が定員に達するのは時間の問題。ロイター通信によると、マレーシアとタイの両政府は、国境付近に難民収容施設を建設する検討を始めた。

### ⑤密航船相次ぎ発見＝ロヒンギャ族数百人乗船か＝タイとマレーシア沖

タイとマレーシアの沖合で13～14日にかけて、ミャンマーのイスラム系少数民族ロヒンギャ族とみられる数百人の乗った密航船が相次いで見つかった。タイ南部サトゥン県の知事によると、同県沖のアンダマン海で14日、300人以上の乗った密航船が漂流しているのが発見された。タイ当局に対する乗船者の説明では、ミャンマーからマレーシアに向かっていたが、マレーシアが密航船を追い返す政策を取っているため、行き先をインドネシアに変更。しかし、エンジン故障

で航行不能になり漂流していたという。一方、AFP通信によれば、マレーシア北部沖で13日夜から14日にかけて、計600人の乗った2隻の密航船が見つかり、マレーシア当局に追い返された。うち1隻はタイ沖で発見されたのと同一の船の可能性があるといる。

#### ⑥マレーシア警察、人身売買業者38人逮捕＝タイとの国境周辺

5/13、マレーシア警察当局は、3月から4月にかけてタイ警察当局と連携し、マレーシアとタイの国境周辺で活動していた人身売買業者の7組織を壊滅し、計38人を逮捕したと明らかにした。逮捕された中には、組織のリーダーだった警官2人が含まれている。逮捕されたのはミャンマー人21人、マレーシア人16人、インドネシア人1人。マレーシア警察関係者は「被害を受けたのは、主にミャンマー人とバングラデシュ人だ」と話している。

## 2. ダウエイ関連ニュース

### ①ミャンマー向け資金供与を承認＝ダウエイ・カンチャナブリ道路整備で＝タイ閣議

タイ政府は7日の閣議で、ミャンマー政府による同国南部ダウエイ経済特区からタイ領カンチャナブリ県プナムロン地区までの道路整備計画に対し、総額45億バツの資金供与を承認した。道路は、片側1車線の全長138キロ。タイ政府は2016～18年の3年間で年15億バツを貸し付ける。返済期間は据え置き10年を含む30年間、金利は0%。資金供与条件をミャンマー政府に提案していく。

### ②ダウエイ工業団地の開発進まず＝インフラ整備、白紙状態

ミャンマー・ダウエイ経済特区の工業団地造成計画が遅々として進んでいない。第1期造成計画は工業団地造成・運営大手のロジアナ工業団地と総合建設大手のイタリアンタイ・デベロップメントが合弁で進めているが、両社間の利益配分方法が固まっていないことがブレーキになっている。ロジアナ幹部のアマラ氏は「工業団地の第1期造成への着手やミャンマー政府との覚書調印といった予定は後ろ倒しになる。いつ実施できるか分からない」と指摘。覚書調印は当初、今月中に行う予定だったという。アマラ氏はまた、「いつインフラが整うかが分からないような工業団地に買い手は付かない」と述べ、計画が進まないもう一つの大きな理由として発電所、道路などインフラ整備の遅れを挙げる。アマラ氏は、インフラ整備、特に電力網の整備についてパートナーのイタリアンタイ側が明確な回答を寄せてくるのを待っている状態という。一方、イタリアンタイの子会社ダウエイ・デベロップメント社のソムジェット社長は、事業遂行に関する話し合いは進行中とだけ述べ、詳細への言及は避けた。

### ③中国、ティラワ・ダウエイ特区の投資に関心

ミャンマーの首都ネピドーで11日行われた、テイン・セイン大統領と中国の楊晶国務委員の会談で、中国側がヤンゴン近郊のティラワや南部タインダーリ管区のダウエイの経済特区(SEZ)への投資に関心を示したことが分かった。大統領報道官を務めるイェ・トゥ情報相が会談後の会見で、タイとミャンマーがSEZ開発を目指すダウエイの港湾や、日本の官民が支援するティラワ工業団地への投資に中国側に関心を寄せていると語った。大統領がどのように応じたかは明らかにされていない。会談では、中国が掲げる現代版シルクロード「一带一路」構想を中心に話し合われたとみられる。ティラワや、港湾開発が計画されている西部ラカイン州チャウピューSEZなど沿岸部を一路(海のシルクロード)と連動させる可能性を探ったもようだ。

## 3. 襲撃で治安部隊8人死亡、インド北東部

5/03、インド北東部ナガランド州で、移動中の治安部隊が武装勢力に襲撃され、8人の兵士が死亡した。当局によると、襲撃現場はミャンマーとの国境付近。治安部隊が駐屯地から移動中、車列が重火器で攻撃された。当局は、インドからの分離独立を目指す反政府武装勢力「ナガランド国民社会主義評議会」の一派による犯行の可能性が高いとみて捜査している。

## 4. ワ軍主催の少数民族武装勢力会合

5/06、北東部シャン州のワ族が主催する少数民族武装勢力の会合が、6日間の日程を終えた。ミャンマー政府と少数民族武装勢力による先の全土停戦合意について、国内でくすぶる紛争解決を最優先すべきとの考えで一致した。

シャン州内のワ自治管区的首都パンサンで開かれた会合には、12の少数民族武装勢力の代表が参加。会合後に発表した12項目の声明では、ミャンマー北部や北東部での国軍による少数民族武装勢力に対する攻撃をやめるよう要求。真の「連邦制」の確立や、多数派のビルマ族と少数民族との平等の権利も求めた。さらに、ミャンマー政府と少数民族武装勢力との和平に、隣国の中国と国連が積極的に関与するよう求めた。ワ族が、ワ自治管区を「ワ州」に格上げすることを求めていることについては、会合に参加した半数以上の勢力が賛同した。シャン州の中国国境近くを地盤とする

ワ族や、先に国軍と抗戦したコーカン族は、ミャンマー政府との和平交渉には参加していない。ワ族連合軍(UWSP)は今後も、会合を開く予定という。

## 5. マンダレー工業団地17 工場停止、排水垂れ流し

マンダレー市開発委員会(MCDC)は、市最大の工業団地、マンダレー工業団地内の17工場に対し、水質管理基準を満たしていないとして、操業停止を命じた。マンダレー工業団地ゾーン2にある製糖工場、缶詰工場、酒造工場、製革工場が含まれる。MCDCの高官は「排水を未処理のまま湖に垂れ流していた」と説明。「排水管理の手順はすでに指示した。規制に従って管理基準を導入し、検査で基準を満たせば、操業を再開できる」と話した。MCDCは、水処理施設や、マンダレー市の南方にあるインワ付近でエーヤワディ(イラワジ)川に合流するミンゲー川に注ぐ配水管の建設を計画している。一連の対策で、市南部アマラプラのタウンタマン湖の汚染を防止する方針。湖には世界一長いチーク材の橋、ウーベイン橋が架かっている。

## 6. 10 万チャット以下の求人は応募なし= 仲介業者

複数の就職仲介業者によると、4月半ばのミャンマー正月(ティンジャン、水掛け祭り)休暇後、月給10万チャット(約1万1,000円)以下の求人には応募者が全くいない状況だ。業者によると、以前は基本給8万チャットの職に応募する人がいたが、現在では10万チャットが応募の最低基準になっている。日用品価格が上昇し、公務員の給与が引き上げられた中、一般求職者も、より高い収入を求めるようになっている。

## 7. ミャンマーに初の「日本語パートナーズ」=東京外大・鈴木さん

国際交流基金が東南アジア諸国連合(ASEAN)各国に日本語教育支援の人材を送る「日本語パートナーズ」事業で、東京外国語大学4年の鈴木聡さん(22)が今月下旬から約10カ月間、ミャンマーのヤンゴン外国語大学日本語学科に派遣される。同国への「日本語パートナーズ」は初めて。

## 8. 最近の外資の進出状況

### ・米KFC、ミャンマー1号店を近く開業

シンガポール証券取引所上場のミャンマー系投資持ち株会社ヨマ・ストラテジック・ホールディングスは、ヤンゴンで、米国系ファストフードチェーン「ケンタッキーフライドチキン(KFC)」のミャンマー1号店を開業すると発表した。開業日などは月内に公表する。

### ・タイの周辺諸国協力機構、ダウエー道路建設に融資

タイ財務省傘下の周辺諸国・経済開発協力機構(NEDA)は、ミャンマー南部タニンダーリ管区のダウエー経済特区(SEZ)とタイ西部カンチャナブリ県プーナムロンを結ぶ道路の建設資金として、ミャンマー政府に40億バーツ(約143億円)のソフトローンを供与する計画だ。道路建設が投資、貿易の促進につながると期待している。

### ・ヤマハ、マンダレーに販売店

新代理店通じ再進出、1万台目標ヤマハ発動機は9日、ミャンマー第2の都市マンダレーにバイクの販売店を開いた。ミャンマーで以前指名していた代理店との契約が切れていたが、新たな代理店を指名して再進出した。国内最大のバイク市場であるマンダレーを皮切りに、日本ブランドのバイクが年10万台と推計されるミャンマー市場でシェア10%、年1万台の販売を目指す。

### ・クボタ、ティラワで最終処分場浸出水処理を受注

5/08、ティラワ経済特区(SEZ)ゾーンAで、管理型最終処分場浸出水処理施設の建設工事を、DOWAエコシステムの子会社ゴールデンDOWAエコシステム・ミャンマーから受注したと発表した。クボタは初期コストと運用コストを抑えた排水処理プラントを提案し、受注につなげた。今年10月の稼働を予定する。管理型最終処分場の建設はミャンマーでも初。

### ・カールスバーグ、バゴー工場を正式に稼働

5/07、デンマークのビール大手カールスバーグは、ヤンゴンの北に位置するバゴー管区で合弁会社のビール工場を正式に稼働させたと発表。外資ブランドが独自に現地生産するのは初めて。独DPA通信によると、年産能力は6,000万リットル、投資額は7,500万米ドル(約90億円)。

### ・FMI、インドネシアのリッポーと病院合併

5/08、サージ・パン・アンド・アソシエーツ・ミャンマー(SPA)傘下の投資持ち株会社ファースト・ミャンマー・インベストメント(FMI)は、インドネシアの複合企業リッポー・グループとミャンマーでの病院事業を合併で行う計画を承認したと発表した。リッポー傘下でインドネシア最大手のシロアム・インターナショナル病院と連携する。

•**米ベストウェスタン、マンダレーに進出**

米ホテルチェーン大手ベストウェスタン・インターナショナルが、ミャンマー第2の都市マンダレーに進出した。「ホテル・シュエピタ」の経営を引き継いで「ベストウェスタン・プレミアホテル・シュエピタ」として運営すると発表した。ホテルは現在、客室数 91 室で、薄型テレビや無料WiFi(ワイファイ)などを備える。今後は新棟を建設し、客室数を 200 室増やして計 291 室とする。2016 年第4四半期(10~12 月)の完工を見込む。

•**ヤクルト、現地法人設立=工場建設目指す**

ヤクルト本社は、ミャンマーでの乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造・販売に向け現地法人を設立することを明らかにした。同社は東南アジア諸国連合(ASEAN)10カ国では既にシンガポールやタイ、インドネシアなど先・中進7カ国に進出しているが、今回、5000万人以上の人口を抱え、健康意識も高まっているミャンマーへの進出を決断した。

•**南部メー諸島、シンガポール系が大型開発計画**

南部タニンダリー管区のメー諸島(メルギー諸島)で、マリーナや高級ホテル、テーマパーク、カジノを開発する「ラックストリーム」プロジェクトが浮上している。シンガポール企業が 12 億米ドル(約 1,440 億円)の投資を計画。タイ南部のリゾート地にちなんで「次のプーケット」に育成する狙いだ。

•**台湾の亜洲光学、ミャンマーを重要拠点へ**

光学部品メーカー大手の亜洲光学は、ミャンマーを重要生産拠点とする方針だ。現在、ヤンゴンに構える工場の従業員は約4000人だが、今後、ピンウールイン地区にも工場を増設し、計2万5000人体制に拡大する考え。実現すれば、ミャンマーは同社最大の拠点となる。

以上